

「のりものの ピカピカ★ポイント ゲットだぜ！」 いろいろなふね

1 日 時 令和7年 11月 14日（金） 1校時

2 学年・学級 第1学年2組（28名）

3 本単元で付けたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 【(2)ア】	○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 【C(1)オ】	○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

4 付けたい資質・能力に関する児童の実態

- 「読むこと(説明的な文章)」の領域に関わる学習について、レディネステストを行った結果は以下の通りであった。

内容項目	正答率
重要な語や文を考えて選び出している。	79%
文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	14%

結果から、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことは、8割程度の児童が身に付いていることが分かる。残りの2割の児童は、ひらがなを文字としては読めるが、語句のまとまりが読めていなかったり、拗音、促音などの表記が正しく書けなかったりすることにより、文章の意味を捉えることが難しく、重要な語や文を考えて選び出すことに課題がある。また、1学期は一部の児童が感想を述べるにとどまり、思いを表現する語句も限られていた。全員に自分の考えをもたせる時間を設定することが少なかったため、文章を読んで理解した内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ力は身に付いているとは言えない。読書量にも差があり、語彙の少なさや経験の差が課題となっている。

5 指導観

【授業づくりの柱】

- ① 児童の実態を踏まえた「指導の工夫」をする。
- ② 児童の自己表現の力を高める「伝え合いの場」の工夫をする。
- ③ 児童に付けるべき力を明確にし、達成するための「単元づくり」の工夫をする。

- 第1次では、まず児童の実際の経験を十分に想起できるようにしたい。児童が船についてどのくらい知っているのか、知っている船を出し合わせることで、想像を膨らませ、教材文を読んだ時の驚きや気付きを出しやすくさせたい。船に乗った時のことや、見た時のことをしっかりと想起させ、知っ

ていることを全員で共有したり、乗り物クイズをしたりすることで単元への意欲・関心を高めていきたい。船に乗った経験がなく、イメージをもちにくい児童には、写真や動画を手掛かりにしながら、文章の内容が把握できるようにさせる。初読の感想を伝え合う中で児童から出てきた思いを表す言葉の乗り物の「ピカピカ」とし、第3次の学習につなげていきたい。

また、次の「書くこと」の単元では、自分の選んだ乗り物について調べ、カードに分かりやすくまとめ、本単元で、学習した船と合わせて「ピカピカのりものブック」を作り、友達に紹介することを伝えておく。どのような観点でまとめるのかについて、「いろいろなふね」で学習していくことを確認する。

見通しをもち、主体的に学習できるよう、児童と一緒に初読の感想から学習計画を立て、全体で共有して掲示しておく。単元を通して、教室に乗り物の本や図鑑を置き、児童が手に取って読める環境を整える。また、朝学習などを通して語彙を増やす時間を設定したい。

- 第2次では、文章の内容の大体を捉えるために、文章の構成（はじめ・中・おわり）を押さえていく。その際、教材文をプリント1枚にまとめたものを作成し、文章のまとまりが一目で分かるような配置にする。それを児童に色分けさせることで、文章の内容の大体を視覚的に捉えやすくする。また、文章の中からそれぞれの船の「やく目」「つくり」「できること」を見付けさせる。「やく目」を見付ける際は繰り返し出てくる「～ための」という語に着目させ、「つくり」を見付ける際には「役目に合うためにどんなつくりになっているか」を問いかける。その「つくり」によってどんなことができるかを問いかけることで、それぞれの船に「やく目」「つくり」「できること」の3つが必ずあることを理解させたい。さらに、本文から重要な語や文を考えて選び出させ、その船の「やく目」「つくり」「できること」に合うように、文を短くまとめさせる。

- 第3次では、各時間の初めにそれぞれの船のイメージを膨らませるために、写真や動画を用いたり、既有的知識や経験を出させたりして全体で共有する。そうすることで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて考えやすくさせたい。

教材文の中のそれぞれの船を説明している3文のうち、自分が最も心に残った魅力を1つ選ばせ、それを「ピカピカ★ポイント」とする。その際、ICT機器を使って文を選択させ、画面上で共有することで、友達がどの文を選んだのかが一目で分かるようにする。選んだ理由をまず個人で考え、同じ「ピカピカ★ポイント」を選んだ児童同士で交流させる。理由を考える際には、他の乗り物と比較したり、その船の特徴に注目させたりしながら、既有的知識や実際の経験と結び付けて考えさせたい。交流後に再度自分の考えを書く時間を設けることで、自分の考えを広げたり深めたりさせる。各船の学習を進める中で新たに出てきた感想の言葉を「ピカピカ」に付け加え、掲示しておくことで、自分の思いを表現する語彙を増やしていきたい。

- 第4次では、それぞれの乗り物には必ず「やく目」「つくり」「できること」の3つが必ずあったことや、文章の内容と自分の知識や経験とをどう結び付けて考えたのかということを振り返らせる。それをもとに、自分がもっと知りたいと思う乗り物を本の中から選んで決めさせ、次の「書くこと」の単元へとつなげていく。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。【(2)ア】	○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。【C(1)オ】	○進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて読み、学習したことを生かして自分が最も心に残った魅力を書き表そうとしている。

7 単元の展開（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準・評価方法等
第一 次	1	○船についてのイメージを広げ、学習計画を立てる。 ・乗り物クイズ（答えはボート）をし、興味をもつ。 ・範読を聞き、教材文に出てきた順番に写真を並べたり、4つの船の動画を見たりする。 ・4つの船について知っていることを出し合う。 ・初読の感想を伝え合い、その内容をもとに学習計画を立てる。 いろいろなりのものの「ピカピカ★ポイント」を見つけてカードにまとめよう。	
	2	○内容の大体を捉える。 ・「はじめ」「中」「おわり」の役割について考え、文章の構成を捉える。 ・本文中から「やく目」「つくり」「できること」を見つける。	【知識・技能】 教材文を1枚にまとめたもの ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。【(2)ア】
第二 次	3	○本文の文章から重要な語や文を選び出し、「やく目」「つくり」「できること」を短くまとめる。	
第三 次	4	○客船の「ピカピカ★ポイント」を選び、わけを書く。	【思考・判断・表現】 のりものカード、ミライシード ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 【C(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 のりものカード ・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて、学習したことを生かして自分が最も心に残った魅力を書き表そうとしている。
	5	○漁船の「ピカピカ★ポイント」を選び、わけを書く。	
	6	○【本時】フェリーボートの「ピカピカ★ポイント」を選び、わけを書く。	
	7	○消防艇の「ピカピカ★ポイント」を選び、わけを書く。	
第四 次	8	○どの船にも「やく目」「つくり」「できること」の3つがあったことや「ピカピカ★ポイント」のわけを考えたことを振り返り、次の「書くこと」の単元で書く乗り物を選んで決める。	

8 本時の学習

(1) 目標

フェリーボートの「ピカピカ★ポイント」を選び、自分の体験と結び付けた感想をもつことができる。

(2) 評価方法

授業中の発言，のりものカード，ミライシード

(3) 学習の展開（6時間目／全8時間）

学習展開	学習活動	指導上の留意点・支援【評価】
つかむ	1 前時の復習をする。 T：船の「やく目」「つくり」「できること」について書かれていましたね。 T：客船や漁船の「ピカピカ★ポイント」を見つけてわけを考えましたね。	・クイズで扱った乗り物（ボート）や客船・漁船での学習を活かせるよう，写真を掲示しておく。
	2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">㊦ フェリーボートのピカピカ★ポイントを見つけて，わけをかんがえよう。</div>	
さぐる・みつめる	3 フェリーボートのイメージを膨らませる。 ○フェリーボートについて知っていることを出し合う。	・宮島のフェリーボートに乗ったことがある児童が想起しやすいよう宮島行きフェリーの写真を用意しておく。 ・想像を膨らませるために，他の乗り物と比べてもよいことを伝える。
	4 教材文を読み取る。 ○「やく目」たくさんの人とじどう車をいっしょにはこぶためのふね。 ○「つくり」きゃくしつや車をとめておくところがある。 ○「できること」人は，車をふねに入れてから，きゃくしつで休む。	
	5 フェリーボートの最も心に残った魅力（「ピカピカ★ポイント」）を決める。	

	<p>6 フェリーボートの「ピカピカ★ポイント」を選んだわけを考え、同じところを選んだ人同士で交流する。</p> <p>○個人で考える。</p> <p>C：客船は人だけを運んでいたのに、フェリーボートは人と車を両方運べるからカッコいい。</p> <p>C：車を停められるとフェリーが着いたらすぐ車に乗れて、いろんな所へ出かけられるからすごい。</p> <p>C：家族で宮島に行ったときに、眺めのいい客室で休めて気持ちがよかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書かせた漁船ののりものカードをいくつか紹介し、活動のイメージがもてるようにする。 ・〔考えるヒント〕を提示し、具体的に考えられるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〔考えるヒント〕</p> <p>① ほかののりものとくらべて (他の乗り物との比較で分かるその船の特徴)</p> <p>② こんなことしているよ (既存の知識や体験)</p> <p>③ ともだちとはなして (友達との交流で気付いたこと)</p> </div>
ひろがる	<p>○考えを交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〔交流の話型〕</p> <p>A 選んだわけを教えてください。</p> <p>B 〜だからです。</p> <p>A なるほど！へえ～！ いいですね！ (きいたよ！のサイン)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ文を選んだ児童同士で交流させ、自分の考えを整理したり引き出させたりする。 ・交流する際の話型を示す。
まとめる	<p>○全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流した後、再度自分の考えを書く時間を設ける。 <p>【文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(のりものカード)】</p>
いかす	<p>7 本時の振り返りをする。</p> <p>C：フェリーボートは人と車を両方運べるのでびっくりしました。</p> <p>C：〇〇さんが客室で休むと気持ちがいいと教えてくれて、私も乗ってみたいと思いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことを次時につなげられるようにする。

9 板書計画

かんがえる
ヒント

交流の話型

できること
人は、車をふねに入れてから、
きやくしつで休む。

つくり
きやくしつや車をとめておくところ
がある。

やく目
たくさんの人とじどう車をいつしよ
にはこぶためのふね。

宮島フェリーの写真

車を停めて
いる写真

客室の写真

フェリーの写真

- ・人と車をはこぶ。
- ・きやくしつがある。
- ・車をとめられる。
- ・テレビがある。
- ・じどうはんばいきがある。
- ・みやじまにいける。

いろいろなふね
④フェリーボートの「ピカピカ★ポイント」
を見つけて、わけをかんがえよう。

10 目指す児童の姿と手立て

	指導の工夫	することによって	目指す児童の具体的な姿
① 指導の工夫 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・「やく目」「つくり」「できること」を読み取る前に、宮島行きのフェリーボートの写真を用意し、イメージを膨らませる。 ・教材文を1枚にまとめ、文章の内容の大体を捉えやすくする。 ・「ピカピカ★ポイント」を考えるヒントを示す。 (指導案本時に記載あり) 		<ul style="list-style-type: none"> ○他の乗り物との違いやフェリーボートだけにある特徴を具体的に捉え、フェリーボートに乗ったことがない児童もどんな船かイメージをもって読み取りの活動にうつることができる。 ○色分けをすることで、「やく目」「つくり」「できること」を読み取ることができる。 ○「ピカピカ★ポイント」を選んだ理由について、より具体的に感想を書くことができる。
② 伝え合いの場 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を用いて3つの文から1文を選択させ、「ピカピカ★ポイント」を選んだ理由を伝え合う際に、同じ部分を選んだ人同士で交流する時間を設ける。 ・交流する際のポイントや話型を示す(指導案本時に記載あり)とともに、聞き手が反応を返せるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○同じ部分を選んだ人の考えを聞き、自分の考えを整理したり、引き出したりすることができる。 ○相手の考えを進んで聞こうとし、互いの考えを認め合おうとすることができる。
③ 単元づくりの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな乗り物の「ピカピカ★ポイント」(特徴や優れているところ)を見つけ、「ピカピカのりものブック」を作るという単元のゴールを設定し、学習の見通しをもたせる。 ・宮島行きのフェリーボートが身近な児童の実態に合わせて、本文の「フェリーボート」と「漁船」の順番を入れ替える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目的がはっきりしていることで、児童が興味をもって、意欲的に学習に取り組むことができる。 ○写真を見たり、実際にフェリーボートに乗った経験を想起させたりすることで、「ピカピカ★ポイント」の理由を具体的に考えることができる。